

フラワースタンド装飾における技術向上

花き装飾コース 阿部 咲希

(指導教員：吉田 久美子)

1. はじめに

私は昔から花と緑で人を喜ばせるフローリストになりたいという夢をもっており、その夢を叶えるために園芸アカデミーに入学した。園芸アカデミーの授業で植物の知識や技術を身につけていく日々の中で、フラワースタンドを制作する仕事に就きたいという夢ができた。就職活動ののち、フラワースタンドの制作もしている生花店での内定をいただくことができたため、卒業制作では、就職後即戦力になれるように様々な種類のスタンド花やフラスタを制作することで、臨機応変に対応できるように技術向上を目指した。

2. 制作作品

(1) スタンド花

作品 1		
色	赤・オレンジ系	
構成	面構成	
スタンドの種類	パイプ	

<学んだこと>

- ・ユリを他の花よりも 3～5 cm 程度長く挿すことで、他の花よりも飛び出して見え、目立たせることができる。
- ・重心が後ろになるように、テイクバック気味に挿す。
- ・作業効率を考えて花材や資材を配置すると無駄な動作が減り、制作時間が早くなる。

作品 2		
色	ピンク・黄色・白系	
構成	立体構成	
スタンドの種類	モダン	

<学んだこと>

- ・オンシジウムは花の全体が見えるように挿すと良い。
- ・ウンリュウヤナギは上に伸びるようなイメージでファンになるように挿すと良い。

(2) フラスト

「シャオロン」	
贈る相手	
色	黄色・青系
パネル	
なまえ札	






<学んだこと>

- ・パネルをイラストの形に沿って切るべき。
- ・花を全て挿してからパネルを挿す方法に変更したほうがいい。
- ・パネルや花の面積、リボンやフラスタのサイズなど、全体のバランスを意識して構成することが大切。

3. まとめ

スタンド花制作では、毎日練習を重ね、制作時間の短縮のために作業工程や作業場所の配置の試行錯誤を何度も繰り返したことで、制作時間を 300 分から 62 分まで短縮することが出来た。さらに短縮できるよう、今後も練習を重ねていきたい。

また、花の扱い方や挿す位置、向きを見極める重要性を学んだ。花の向きや位置を間違えてしまい、花の魅力を損なっていることがあったので、1つ1つよく見ながら、どの位置に、どの向きで挿すのか、瞬時に適切な配置を見つけられるようにしたい。

フラスタ制作では、形や全体のバランスが綺麗にならなかったり、資材を上手く活用出来なかったりなど、課題が多かった。一部分はよく見えても、全体としては調和が取れていないということがあった。そのため、全体のバランスを意識した構成が求められると学んだ。想像を形にする難しさについて学ぶことができ、今後もさらなる技術向上を目指していきたいと思った。

多くの課題に向き合いながら制作を進めるなかで、着実な成長を感じることが出来た。これからは、卒業制作を通して得た知識や技術を就職後に活かして、お客様に希望以上のフラスタをお届けできるフローリストになりたい。